

新潟日報朝刊2024年12月12日付 新潟日報社提供

会坂爪製作所

創業	1919年
設立	1983年
資本金	1000万円
売上高	2億円 (2024年9月期)
事業内容	内装工具、DIY 商品製造販売
従業員数	10人(パート含む) (24年11月現在)

買い手企業 (株)坂爪製作所 =三条市=



機械を使いヘラの先を加工する坂爪製作所の職人=三条市

生産性アップに期待感

会社の行く末に頭を悩ませる中、偶然にも三条市が実施した事業承継のアンケートが届く。市の担当者に相談したところ、新潟県事業承継・引継ぎ支援センターとつながり、

百十余年の歴史を持ち、爪切りや和くるみ割り器などの金属製品製造で知られる古沢製作所。2023年8月、3代目の古澤幸朗さんが61歳で亡くなり、妻の真弓さん(57)が、代表取締役に就任した。

これまで経理や出荷などを担当していた真弓さんだが、製造や経営は大黒柱である幸朗さんが担っていた。「金型作りや機械の修理など夫がやつてきた。後に後継者もおらず、一人で続けるのは難しかった」と振り返る。「全てを自分で背負わなくていい」という義母の言葉の意味を深く

経営者の高齢化や後継者難に伴い、第三者への事業承継が注目されている。新潟県事業承継・引き継ぎ支援センターや三条市が仲介し、事業を譲渡した古沢製作所（三条市）、新たに引き継いだ坂爪製作所（同市）の事例を紹介する。

事業承継で未来へ飛躍

# 職人の技 次代へ

古沢製作所の代表取締役も務める坂爪慎代表取締役(51)は「ヘラなど」の工具はニッヂな商品であり、今後の市場拡大が難しい。違った領域に取

製化のため譲渡企業を探して  
いた。地元の金融機関を通し、改善する余地はある。事業センターリーに相談。その中で事業分野の拡大も検討していることが分かり、センターが仲介した。

「職場環境を含め、經營を  
これからだが、会社が成長していく過程を従業員とともに感じたい」と力を込めた。

企業の合併・買収(M&A)による譲渡先探しが始まった。などを理由に、事業を引き継ぐことを決めた。長年培ってきた職人技の継承以上にこだわったのが「全従業員の雇用確保」。20～50代と比較的若い世代が多く、「受注が多ければその分、吸収しない条件だった。交渉の結果、坂爪製作所との話がまとまり、24年10月に新体制で発的に考へてほしい」。手始めに新体制で移行した。「倒産が避けられ、めにスマートフォンで従業員に取引先にも迷惑をかけずに済んだ」と眞理さんは安堵する。一方、塗装や内装に使うヘラなどの工具を製造する坂爪製作所は、外注部品の一部内製化する「一括調達する。

## 全従業員の雇用を確保

売り手企業 (株)古沢製作所 =三条市=



爪切りの刃を合わせるため、研磨する古沢製作所の職人=三条市

企画・制作／新潟日報社  
統合営業本部